

第三回「石川台中学校 学校改築懇談会」を開催しました

令和5年10月13日に、第三回学校改築懇談会が石川台中学校にて行われました。6月末から8月末にかけて実施したアンケート結果（地域の皆様向け）及び生徒ヒアリングのご報告、改築に当たってのコンセプト及び施設整備方針（案）の作成、建物の配置計画に関することが議題となりました。

・アンケート結果の報告

アンケート結果（地域の皆様向け）のご報告を行いました。
ご協力頂きました皆様、ありがとうございました。

※全対象者の皆様の結果は、開催報告vol.2と同時にホームページへ掲載中です。 [こちら](#)

・生徒ヒアリングの報告

生徒代表の皆様にご協力いただき、区職員、支援事業者と直接意見交換を行う生徒ヒアリングを実施しました。

アンケートの質問を深掘りし「新しい学校にあると良いもの」「未来の石川台中学校に継承したいもの」について、様々なご意見をいただきました。コンセプト・施設整備方針案を作成するためのキーワード抽出の参考とさせていただきますとともに、今後の設計においても貴重なご意見として活かしてまいります。

>> 以下、結果一部抜粋

Q：新しい学校にあると良いものは何ですか？

- ・廊下が狭く、おしゃべりをしていると通行の邪魔になってしまうので広い廊下がほしい
- ・教室内や廊下に共用スペースがほしい ・静かさもありつつある程度会話が可能な自習室がほしい

Q：新しい石川台中学校に残したいもの、雰囲気は何ですか？

- ・学年を超えた交流 ・廊下が直線のため、教室配置が明快で移動しやすいところ

・コンセプト及び施設整備方針案について

・コンセプト案

石川台中学校の伝統と学年を超えたあたたかい繋がりを尊び、
多様性を受容するアットホームな学び舎
～「言葉の力」「感性」「未来を切り拓く力」を育む、新しい時代に
ふさわしい彩り豊かな学びの空間の実現～

・施設整備方針案

学び：国語教育や学校図書館を中心に学習意欲を刺激する空間づくり

生活：心身ともに豊かな3年間を過ごせる心地良い空間づくり

共創：誰もが「共に育つ」ことができる多様な学びの空間づくり

安全：防犯や防災に配慮し、誰もが利用しやすく安心安全な施設づくり

環境：呑川緑道軸に接する豊かな周辺環境に調和し、省エネルギー化を目指した施設づくり

実施日時：令和5年10月13日（金）
18時30分から19時30分
場 所：石川台中学校 視聴覚室

次第

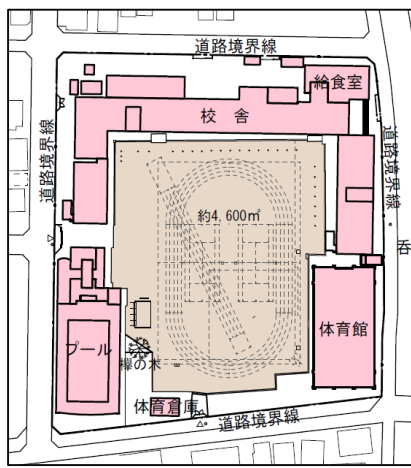
- ①開会挨拶（教育施設担当課長）
- ②アンケート結果（地域の皆様向け）
及び生徒ヒアリングの報告
- ③コンセプト及び施設整備方針案の報告
- ④配置、ゾーニング比較検討、整備ステップについて
- ⑤第二回学校改築懇談会の開催報告について
- ⑥質疑応答
- ⑦閉会の挨拶（学校長）



・配置、ゾーニング比較検討、整備ステップについて

改築後の配置計画について、計画条件を前提として4つの案をお示しした上で、各案の良い点、気になる点、改築を通して配慮すべき点等について意見を出し合いました。

・参考：既存校舍



(案1) 西側配置

整形部分を既存と同程度確保できる	○
校舎の影が校庭に影響し難い	○
西側の周辺住宅に対して校舎が現況より近くなる	△
避難所となる体育館が香川に近い配置となるが、嵩上げなどの対策で水害時にも利用できる可能性がある	○
校舎が先行完成するため、新校舎の利用開始時期が早い	○
仮設校舎が不要であり、工事中の校庭が広く確保できる	○
新校舎と既存体育館が離れており、工事ステップ③～④では渡り廊下が必要	△
仮設校舎が不要であり、賃貸借費分を抑えることができる	○

(案2) 北側配置

整形部分を既存と同程度確保できる	○
校舎の影が校庭に影響し難い	○
西側の周辺住宅に対して校舎が現況より近くなる	△
避難所となる体育館を香川から離れた西側に配置でき、嵩上げなどの対策で水害時にも利用できる可能性がある	○
新校舎を一度に建設することができるが、利用開始時期は遅くなる	△
仮設校舎を建設し一度に新校舎を建設するため、工事中の校庭が狭くなる	△
仮設校舎と既存体育館が近いいため、工事中も利用しやすい	○
仮設校舎の賃貸借費分がコストアップとなる	△

<計画条件>

- ・工期短縮を前提とした上で、学校を運営しながら敷地内で建て替えを行う（全ての建物を対象とする）
- ・工事中に体育館、給食室が使えない期間がないように工事ステップを計画する
- ・新校舎には、校舎・体育館・武道場・屋上プールを整備する
- ・用途地域（第一種低層住居専用地域）の指定により、建物高さの最高限度は12m（認定もしくは許可取得が条件）但し、敷地北側は斜線制限があり、北側約13mは高さ12m以下としなければならない
- ・敷地外周は「大田区開発指針要綱」「香川緑道軸整備計画」により歩道の整備が必要
- ・シンボルとなっているけやきの木は現在の位置に残すことはできない（移植について調査中）
- ・校庭は可能な限り整形とし、既存校庭以上の広さを確保する
- ・ZEB Ready相当の省エネルギー性能を確保することを目標とする

(案3) 南側配置

専用のテニスコートが出来るが、校庭の整形な部分は既存より狭くなる	×
校庭に校舎の日影が生じる	×
西側の周辺住宅に対して校舎が現況より近くなり、南側の周辺住宅に対しては校舎の全面が対面する形になる	×
避難所となる体育館を香川から離れた西側に配置でき、嵩上げなどの対策で水害時にも利用できる可能性がある	○
校舎が先行完成するため、新校舎の利用開始時期が早い	○
仮設校舎が不要であり、工事中の校庭が広く確保できる	○
新校舎と既存体育館が近いため、工事中（ステップ③～④）も利用しやすい	○
仮設校舎が不要であり、賃貸借費分を抑えることができる	○

(案4) 東側配置

整形部分を既存と同程度確保できる	○
朝日は期待できないが、校舎の影が校庭に影響し難い	△
校舎が香川沿いとなり、周辺への影響は軽減される	○
校舎が香川沿いとなり、水害のリスクが懸念される	×
新校舎を一度に建設することができるが、利用開始時期は遅くなる	△
仮設校舎及び仮設体育館を建設し一度に新校舎を建設するため、工事中の校庭が狭くなる	×
仮設校舎と仮設体育館が近いため、工事中も利用しやすい	○
仮設校舎・仮設体育館の賃貸借費分がコストアップとなる	×

・主な質疑応答、ご意見

- Q：身近に緑を感じられる環境が石川台中のアットホームな雰囲気を作り出していると思われるため、コンセプトや施設整備方針の中に緑に関するワードがもう少し必要ではないか。
→「彩り豊か」という部分に緑に関する内容も含めて考えており、移植可能な木については移植を検討していく。
- Q：コンクリートの打放しよりも、木材を利用した校舎が望ましいのではないか。
→木材を利用した校舎づくりを想定している。
- Q：体育館と武道場を重層化して、制限を超えないよう高さ12m以下とすることはできないか。
→区の基準として定めている体育館・武道場の天井高さを考慮すると制限の12mを超えてしまうため不可である。
- Q：プール使用不可期間はどれくらいか。工事中の校庭が狭くなる案を採用した場合は、どこかに移動するのか。防災倉庫は体育館と同じフロアになるか。
→案により異なるが、基本的には近隣校等のプールを、グラウンドも近隣校や河川敷を借用することが考えられる。防災倉庫は、避難所となりうる体育館付近で同フロアに設置することが多い。